

## 2021年度 大阪産業大学附属高等学校 学校評価

### 1 めざす学校像

建学の精神「偉大なる平凡人たれ」は、平凡な日常生活をきちんと送っていくこそ偉大なことである、地道にたゆまず努力していくことは偉大なことであると教えています。日常生活の大切さ、努力の重要性を説く「偉大なる平凡人たれ」の建学の精神は、今、本校の次のような姿に現れています。

挨拶する声が響きあう学校。

夜遅くまで自習室で学習する生徒。

朝早くから自主練習に励むクラブ員。

生徒一人ひとりの努力をもっと励ましていける学校をつくっていきます。

### 2 中長期的目標

1. 教学改革
  - (1) カリキュラムの改定
  - (2) 人格の形成をめざして
  - (3) 生活指導の充実
  - (4) 課外活動の活性化
  - (5) 国際理解教育の推進
  - (6) 大阪産業大学ファミリーの構築
2. 進路指導の発展
  - (1) 進路指導部の充実
  - (2) 附属高校から大阪産業大学への内部進学対策
  - (3) 他大学への進学対策
  - (4) キャリア教育の充実
3. 広報
  - (1) 優秀な生徒の確保
  - (2) 入試広報の充実
  - (3) 入試渉外活動の充実
4. 人材育成
  - (1) 優秀な職員の確保と研修の促進
5. 経営改革
  - (1) 財政基盤の確立
  - (2) 学校規模の適正化
  - (3) 施設設備の充実
6. 防災・安全対策
  - (1) 防災対策の徹底
  - (2) 安全対策の徹底
7. 学校運営
  - (1) コンプライアンスの遵守
  - (2) 情報開示

#### 【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [2020年1月実施分]	学校評価委員会からの意見
○生徒 別紙「2021年度 アンケート結果のご報告」参照 ・「授業アンケート」の結果 ・「授業を受ける態度と学習についての自己評価アンケート」の結果 ・「学校生活についてのアンケート」の結果	別紙「2021年度 学校関係者評価」参照

3 本年度の取組内容及び自己評価

中 期 的 目 標	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標	自己評価
1  <b>教 学 改 革</b>	(1)カリキュラムの改定 ア. 新カリキュラムの作成	カリキュラム委員会を設置し、新学習指導要領に対応できるカリキュラムを作成しました。学習指導要領改訂に伴い、新たな評価法となる観点別評価についても作成しました。	高校生活のしおり	新カリキュラムの器だけでなく、中身も充実させ、これからの予測不能な社会に対応できるように自ら学び、主体的に判断し、行動できる生徒を育成していきたいと思います。
	イ. 年間行事計画の見直し	授業日数の確保を踏まえ、始業式・終業式等年間行事計画を見直します。	2022 年度年間行事予定表	行事委員会を組織し、2022 年度の年間行事について検討しました。
	ウ. 学習効果の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業アンケートの実施</li> <li>・授業を受ける態度と学習についての自己評価アンケートの実施</li> </ul>	アンケート結果(別紙)	「生徒が主体的に学習に取り組むためにどのようにしていくのか」が本校の大きな課題となっており、引き続き取り組んでいきます。
	エ. 図書活動の強化	『与える教育』から『考えさせる教育』へ」という教育実践目標の具体化として、図書館機能の充実と図書委員会の活性化を進め、図書活動の強化を図ります。	月 1 回の「Library News」の発行	学校司書の配置のもと、図書委員会活動が活発に行われています。年度初めに図書委員会を開催し、各クラスの図書委員に役割を与え、図書活動の強化を図りました。また、「Library News」に生徒による図書紹介や読書感想文を載せることでも図書活動の強化を図りました。
	オ. ICT教育の推進	来年度より新入生に一人一台端末を所持させ、ICT教育を本格的に推進していくための準備を始めました。また、それに向けてICT教育推進部が教員への研修会を定期的に行い、ICT教育力の向上を図りました。	「学校の先生は、ICT機器を積極的に活用している」(生徒アンケート)の質問に 91%が肯定的評価をしています。	新型コロナウイルスで自宅待機している生徒に向けてハイブリッド授業を行うことは、教員間に共通認識として浸透してきました。教員はプロジェクターを有効に活用するために教材を工夫して作成しています。また、教員・生徒・保護者間のClassiの活用、教員のデジ楽の活用など、アプリの活用度が高まっています。
	(2) 人格の形成をめざして ア. 徳・知・体「三位一体教育」の推進			授業、各種講座、体育祭・文化祭(梧桐祭)等の行事を通じて「三位一体教育」を推進しました。体育会実行委員会を開催し、体育祭をより充実したものにするよう検討しました。
イ. 地元から愛される学校づくり	昨年に続き今年も、生徒会やクラブが参加協力している近隣の董フェスティバル、城東区SARUGAKU祭が中止となってしまいました。再開できれば地元の方々との交流を深めたいと思います。	学校関係者評価委員会での地域住民の方の意見		

1 教 学 改 革	ウ. 平和・人権教育の推進	いじめ実態調査(年4回)、人権教育週間(6月)、人権啓発週間(9月)、人権フォーラム(11月)に取り組みました。	「学校は、いじめを許さないようにしっかり取り組んでいる」(生徒アンケート)の質問に87%が肯定的な回答をしています。	人権教育推進部が行っている人権研修を通じて、人権意識の涵養に努めています。また、いじめ実態調査を定期的実施し、いじめの芽があれば早く摘み取るように取り組んでいます。
	エ. 「面倒見の良さ」と「厳しさ」の両面から迫る教育の実践		学力保障期間の取り組み	クラス担任と教科担当者やクラブ顧問、クラス担任と保護者との連携をとりながら、学力・生活指導を進めました。問題を抱える生徒に寄り添う一方で、甘やかせることをせず、指導に当たりました。問題を早期に把握することで解決を早めるよう努めました。学力保障期間を設け、「面倒見の良さ」とともに「厳しさ」の両面から教育実践を進めました。
	オ. 「褒めて伸ばす」指導の実践			職員会議を通じて「叱るだけではなく、生徒のいいところを褒める」ことをすすめています。
	カ. 学校行事を通じて生徒の積極性を引き出す	新型コロナウイルスの影響で、1年生の夏期宿泊研修や芸術鑑賞などが中止となりましたが、体育祭や文化祭は工夫を凝らして実施しました。	「この学校の生徒は学校生活に積極的に取り組んでいる」(生徒アンケート)の質問に87%が肯定的な回答をしています。	体育祭・梧桐祭とも感染防止のため、密を避け規模を縮小しての実施となりましたが、体育祭では初めての取り組みとして団ごとに団旗を作成し、生徒の団結力を高める取り組みを行いました。
	(3) 生活指導の充実 ア. 挨拶の励行	挨拶励行の呼びかけ	「この学校の生徒は、挨拶をきちんとしている」(生徒アンケート)の質問に85%が肯定的な回答をしています。	保護者・地域住民の方々、本校を訪れる中学校教員・塾関係者の方々から「挨拶がきちんとできており、気持ちがいい」との評価を受けています。
	イ. 離学者対策の推進	不登校、問題行動、低学力による離学者を防止する体制を整えます。低学力者に対して取り組んでいる学期ごとの学力保障期間の取り組みを再検討します。	学力保障期間の設定	離学者は減少傾向にあります。引き続き不登校、問題行動、低学力等の問題について担任・学年・クラブ顧問・教育相談室が連携して対応するようにします。また、学期ごとに学力保障期間の取り組みを進めました。
	ウ. マナーやモラルの向上	ネット社会の問題点について生徒が理解を深めるように取り組みます。	「この学校の生徒は、携帯電話・スマートフォン使用のルールを守っている」(生徒アンケート)の質問に78%が肯定的な回答をしています。	ネット社会の問題点について記載した「高校生活のしおり」をHRで活用し、生徒が理解を深めるようにしています。入学直後の新入生研修で生徒指導部よりSNSの誤った使用をしないように啓発をしてもらっています。生徒の携帯電話使用のマナーについては、今後も指導をしていきます。
	エ. 個性を伸ばす生徒指導の実施			各コースの特長を明確にするとともに、生徒一人ひとりの個性を重視した指導に努めました。

1 教 学 改 革	(4) 課外活動の活性化		クラブ戦績	本校のクラブ活動には、誇るべき成績が多くあります。多くの運動部、とりわけ強化指定クラブが、全国大会出場、更には「日本一」をめざして練習に励んでおり、実際、全国大会への出場、「日本一」を果たしたクラブもあります。しかし、本校がクラブ活動で誇っているのは、成績だけではありません。
	ア. 「強化指定クラブ」の強化	強化指定クラブ(アメリカンフットボール部、硬式野球部、サッカー部、ラグビー部、バレーボール部、テニス部、柔道部、ウエイトリフティング部)は、スポーツ推薦制度を活用し優秀な生徒の獲得に努め、熱心で充実した練習で全国大会出場を実現するようにします。	クラブ加入率	運動部に 1000 名ちかくの生徒が加わり、文化部と合わせると全校生徒の半数以上がクラブに加入しています。多くの生徒がクラブ活動に参加し、地道にたゆまず努力している姿こそ、本校が誇りにしているものです。
	イ. 文化・芸術活動の充実	吹奏楽部の充実		強化指定クラブの成績は向上しています アメリカンフットボール部、ウエイトリフティング部 少林寺拳法部が全国大会への出場を果たしました。全国大会出場まであと一步のクラブもいくつかあります。更なる成績の向上をめざします。
	ウ. 「学業とクラブ活動の両立」をめざして	「学業とクラブ活動の両立」の呼びかけ	「クラブ活動と学業を両立させるよう取り組んでいる」(生徒アンケート)の質問に 87%が肯定的な回答をしています。	文化祭(梧桐祭)でのクラス展示は、年々充実したものになっています。 吹奏楽部の活動が充実してきています。複数のコンクールに出場し、入賞を果たしています。
	エ. 生徒会活動の充実	生徒会執行部への指導		クラブ員の中には、強化クラブのレギュラーで頑張りながら、あるいは文化部の中心となりながら、学習成績でもトップクラスの成績をおさめている生徒が少なからずいます。 運動部の生徒がリードして、本校の活気ある雰囲気を作っているところがあります。クラブで頑張っている生徒と勉学で頑張っている生徒がお互いを刺激し合い、更なる高みをめざす雰囲気ができつつあります。
(5) 国際理解教育の推進				
ア. 国際科における独自性の推進	1 年次での留学生と交流する宿泊研修、2 年次でのホームステイを含む 9 日間の修学旅行に加え、希望者を対象にした留学制度(1 年間または 3 ヶ月間)を設けていますが、英語力の向上のためのカリキュラムをより一層充実させるようにしていきます。			生徒会主催の「遊戯大会」(年1回、ドッジボール大会やキックベースボール大会を実施)を開催し、多くの生徒が参加していますが、今年度は実施を見送りました。 図書委員会の活動に加え、風紀委員が、駐輪場の整理とともに、校門での挨拶運動にも取り組むようにしています。
				クラウドコンピューティングを導入するとともに、「English Presentation」の授業、外国人留学生との交流プログラムを実施し、主体性・積極性を養うとともに英語力やプレゼンテーション能力の伸長に取り組みました。

(6) 大阪産業大学ファミリーの構築				
ア. 高大連携の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>大阪産業大学孔子学院と提携した中国での語学研修の実施</li> <li>大阪産業大学国際学部と提携したニュージーランド研修・高大接続プログラムの実施</li> </ul>			コロナ禍でこの2年間は実施できていませんが、再開を目指しています。

2 進路指導の発展	(1) 進路指導部の充実 ア. 生徒の多様な受験(進路)への対応	系列の大阪産業大学への内部推薦制度を活用して大学進学する生徒を中心に、スポーツ推薦制度、他大学との高大連携プログラムで進学する生徒、一般受験で大学合格をめざす生徒と、多岐にわたる生徒の進路希望に対応する指導を行っています。	「学校の先生は、進路についての情報をよく知らせてくれる」(生徒アンケート)の質問に86%が肯定的な回答をしています。	本校は4年生大学進学率が約80%となっています。下表は2021年度生徒の大学合格者数です。 <table border="1"> <tr><td>卒業生数</td><td>701</td></tr> <tr><td>大阪産業大学</td><td>229</td></tr> <tr><td>国公立大学</td><td>8</td></tr> <tr><td>関関同立</td><td>44</td></tr> <tr><td>産近甲龍佛</td><td>170</td></tr> <tr><td>関西外国語大学</td><td>27</td></tr> <tr><td>その他の大学</td><td>394</td></tr> </table>	卒業生数	701	大阪産業大学	229	国公立大学	8	関関同立	44	産近甲龍佛	170	関西外国語大学	27	その他の大学	394
	卒業生数	701																
	大阪産業大学	229																
国公立大学	8																	
関関同立	44																	
産近甲龍佛	170																	
関西外国語大学	27																	
その他の大学	394																	
(2) 附属高校から大阪産業大学への内部進学対策 ア. 高大連携による進学指導の充実	キャンパス訪問、出張講義、入学前教育等を通じて、大学進学への目的意識がより一層高まるようにしていきます。さらに、「大学における模擬講義」「高校保護者による産大見学会」を実施していきます。また、卒業生への高校・大学合同の面談指導等、フォローアップを引き続きすすめるようにしていきます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンパス訪問の実施</li> <li>・進学説明会の実施</li> <li>・大学における模擬講義の実施</li> <li>・高校保護者による産大見学会の実施</li> </ul>	大学との協議の上、キャンパス訪問、進学説明会、入学前教育については内容を充実させていきます。															
(3) 他大学への進学  ア. 特進コースの進学対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週 39 時間授業</li> <li>・特別講座</li> <li>・早朝テスト</li> <li>・午後8時まで開放している自習室</li> <li>・受験週間</li> </ul>		国公立大学への合格者は、大阪大学1名、大阪公立大学1名、大阪教育大学1名、滋賀大学1名、帯広畜産大学1名、富山県立大学1名、鳥取大学1名、愛媛大学1名であり、関関同立は計44名、産近甲龍佛は計170名となっています。  今年度は大学入試改革2年目で、大学入学共通テストも難化しましたが、例年以上の成績を上げました。															

4 人材育成	(1) 優秀な職員の確保と研修の促進 ア. 優秀な教育職員の確保	専任教諭数の高齢化が進んでおり、中・長期的な観点から、複数年度の退職者数を、年度を越えて採用できる柔軟な措置を講じることが求められています。	専任教諭の採用	中・長期的な観点を踏まえて、教科・年齢のバランスを考慮した採用を実施しました。
	イ. 教員研修の設計と運営	教育研修部の機能を強化し、授業アンケートの結果を踏まえた自己検討がすすむようにしていきます。ICT教育の研修もすすめています。	授業アンケートの実施	授業アンケートの結果を踏まえ、自己検討を求めました。

<p>6 防 災 ・ 安 全 対 策</p>	<p>(1) 防災対策の徹底 ア. 防災意識の向上</p> <p>(2) 安全対策の徹底 ア. 通学時における安全 対策の強化</p>	<p>防災訓練</p> <p>・「交通安全週間」 ・「登下校指導」</p>	<p>・「交通安全週間」の実施 ・「登下校指導」の実施</p> <p>「この学校の生徒は、自転車 や歩行の交通ルールを守っ ている」(生徒アンケート)の質 問に 81%が肯定的な回答をし ています。</p>	<p>防災意識の向上を図るため、1 学期に防災訓 練を実施しました。本校は生徒数が多いため、 訓練で校庭に集合させることはできませんで したが、「緊急火災警報」「緊急地震速報」を放送 で流し、生徒に周知させました。</p> <p>生徒たちの交通マナーについては、生徒指導 部の交通安全教育などを通じ、今後も向上させ ていきたいと思ひます。</p>
--	---	---	---	---